

振り子時計の鐘の音

松浦 俊博

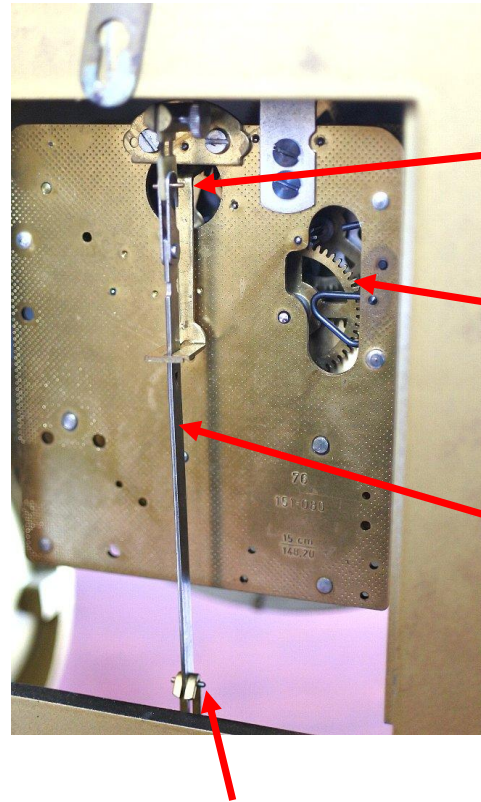
四月に妻から腕時計の電池交換を頼まれた。いつもは池袋の店で交換してもらうのだが、もつと近くにないかとネットで調べた。その中に「時計の玄人」という店があり、名前に引かれたので行ってみた。白山通り沿いで、家からバスで三つ目の停留所で降りると目の前にある。中に入ると広いスペースがあり、そのソファーに腰かけるとお茶を出してくれる。すぐに電池交換をしてくれたが、その間、周りを見渡すと置時計や腕時計のほかにも大きな柱時計もある。時計の修理もしてくれるのか聞くと、「うちには職人がいますからできます」とのことだった。

私の家には、五十年前に両親がヨーロッパ旅行中にスイスで買ってくれた振り子時計がある。ゼンマイを巻いて振り子を動かすタイプの古いものだが、三十五年ほど前から動かなくなっていた。当時住んでいた横浜のはずれにある家の近くには、このような古いタイプの時計を直してくれる店がなく、修理をあきらめて壁飾りとして壁に取り付けていた。時計が動いていたころには、正時と30分には「キンコン、キンコン・・・」という高音の鐘の音を聞いていた。子供たちも小さい頃はこの音を聞いて育った。

この時計を、後日「時計の玄人」に持ち込み見積りをお願いした。修理が終わり、店で振り子が動くことを確認して、振り子の錘とその吊り金具を外して持ち帰った。家で組み立てたら吊り金具が相手側のフックに届かなくなっていた。四苦八苦しても駄目で、再度店に持ち込んでみてもらった。「吊り金具は外しては駄目です。相手側のフックにバネがついているのでそれも調整する必要があります」と言われたが、何とか調整してくれた。歯車の音で正常な動きを確認していた。

五月に息子が一時帰国して家に来た。妻と私と三人でお茶を飲んでいる時に時計の鐘が鳴る。「あれっ、時計直ったの」と驚いていた。小さい頃の思い出がよみがえったのだろう。良い思い出につながるものは大切に残しておきたいと思う。

振り子時計



相手側のフック

歯車

錘の吊り金具

振り子の錘のフック